私の一歩

錦小学校　六年　坂井　燈

「ゾウを食べるにはひと口ずつ」初めて、この本のタイトルを目にしたとき、私は、「えっゾウを食べんの？」と驚き、この本を読むと決心しました。しかし、読み進めるうちに、それが「どんなに大きな困難も、細かく分けて少しずつやれば解決できる」というアフリカのことわざだと知り、心に強い衝撃が走りました。それと同時に、心の中にモワっとした物が広がりました。理由を考えると、私はこれまで、目の前に大きな問題が立ちはだかると、挑戦する前から「どうせ自分には無理だから」と諦めていたからと分かりました。

　このような私も、小学校最高学年の六年生になりました。六年生になってから、先生や親から「さすが六年生」「みんなのお手本になってね」と言われています。しかし、私はその期待が「失敗できない」という重たいものに変わっていました。一年生が言う事を聞いてくれないのは、「私がダメだから」と思い、一年生との交流がしんどい時期がありました。そんな時、本当は「むずかしい」「助けてほしい」と言いたくても、六年生だからしっかりしなければと思い、言えませんでした。そんな私の心は、「食べきれないほど巨大なゾウ」を前にして、立ちすくんでいる状態だったと思います。同時に、私は自分のしんどさの理由と巨大なゾウ、みんなからの期待が一つに結び付いたように感じました。

　そんな私に、一歩ずつ進むことの大切さを教えてくれたのが、本の中のアフリカの子どもたちでした。アフリカの子どもたちは、貧困や水不足といった、私とは比べ物にならないほど厳しく、過酷な環境に置かれています。それなのに、彼らは暗い顔をするどころか、折り紙やチェスなどに前向きに、そして「笑顔」で取り組んでいました。その場面を見て、「なんで前向きに取り組めるんだろう」と思い、彼らは環境を嘆く前に、今できる一歩を必死に、そして楽しそうに取り組んでいることが分かりました。そんな姿を見て、私の胸は少しずつ熱くなりました。大きな目標や役割を一気に完璧にこなす必要はない。今日できる小さな一歩を信じて、コツコツと積み重ねていくことが大切だと学ぶことができました。

　今までの私は、大きな期待を前にすると、「失敗してはいけない」と思っていました。でも今は違います。巨大なゾウを一度に食べきる必要はありません。これからも、きっと私の前には「巨大なゾウ」が現れます。そんな時、まず自分にできる「ひと口」を探し、積み重ねていきます。その結果、巨大なゾウも乗り越えられる。私はそう信じています。今日できる「ひと口」が私の一歩なのだ。この本は私にそれを気づかせてくれました。